

新潟開港150周年記念事業実行委員会 設立趣意書

新潟港は、安政の五カ国条約により開港五港の一つに指定され1869年1月1日（明治元年11月19日）に、佐渡夷港（現在の両津港）を補助港として開港し、2019年1月1日に開港150周年を迎えます。

新潟は、古くより越後平野を流れる信濃川や阿賀野川の川湊として栄え、新津、白根、巻といった現在の新潟市域や、新発田、津川、三条、燕といった地域において物資が流通し、河口地にある新潟湊が舟運と海運をつなげる結節点としての役割を果たしてきました。さらに、江戸時代には、北前船の寄港地としてにぎわい、人・物・文化が新潟を拠点に交流し、日本海側最大の湊町として繁栄しました。

また、開港以後、新潟湊から新潟港へと近代港湾としての機能が整備され、日本海側初の特定重要港湾の指定や新潟東港の開港などを経て、1995年には、日本海側唯一の中核国際港湾に、2011年には、国際海上輸送網の拠点となる国際拠点港湾に位置づけられるなど、日本海側を代表する港として発展してきました。

今後、新潟港をはじめ新潟がさらに発展していくため、新潟開港150周年を、過去から未来へと紡ぎ、新しい新潟を切り拓くスタートの機会として位置づけ、みなとまちの育んだ歴史や文化を継承・発展させ、地域の誇り（シビックプライド）を醸成するとともに、拠点性の向上やまちづくりを推進し、国内外からの交流人口の拡大や地域の活性化につなげていくことが重要となってきます。

新潟開港150周年を迎えるこの記念すべき機会を、地域が一体となった取り組みとして推し進めていくため、幅広い分野から多くの関係者の参画を得て、「新潟開港150周年記念事業実行委員会」を設立します。